

第七次甲府市総合計画説明会 会議録（池田地区）

日 時	令和8年6月26日（金）午後7時00分～午後8時10分
会 場	西公民館 大ホール
参 加 者	91名（市長等及び関係職員含む）
次 第	1 市長説明 2 意見交換 3 地区からの挨拶
意見交換記録	
質問	・若者を定住させるための今後の計画について 第七次総合計画で「幸せ実感 希望ある未来を創り続けるまち甲府」と定めているが、市民が幸せを実感するには暮らしやすく魅力あるまちの形成が必要である。行政が先頭に立って支援を行うことで、甲府で暮らす魅力やメリットを感じ、住みたい人が増えるはずである。子育て世代である若者を増やすため、出産・育児・医療・教育などの多額の出費に対する補助を、低年齢時だけでなく就職年齢まで手厚く支援してほしい。 また、甲府市の支援で育った若者を定住させるために、道路や公共交通などの交通網の整備、魅力ある施設や大型店舗の誘致、各種イベントの開催などが必要と考えるが、人口減少社会の中で若者を増やすための今後の計画を伺いたい。
樋口市長	人口減少、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少は、労働力不足や経済成長の停滞、地域活動の担い手不足など、社会全体に影響を及ぼすことから、本市では人口減少を最重要課題と捉え、本市に住みたい、または住み続けたいと思える暮らしやすく魅力あるまちの形成に向けて、各般の取組を推進するとともに、第七次甲府市総合計画の策定にあたり、今回新たに本市の将来を担う若者を対象に、アンケート調査やワークショップなどを実施する中で、若者がチャレンジしたくなるまちとしていくために若者目線の考え方を取り入れてきた。 こうした中、これまでも子育てをサポートするマイ保健師制度の導入や、高校生までの医療費無償化など、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行ってきており、こうした取組などにより、民間の調査機関が行う「次世代育成環境ランキング」において令和6年から3年連続1位という高い評価につ

質問	ながつたものと考えている。 さらに、今年度からは小中学校給食費の完全無償化や新たな子どもの居場所づくりとして「（仮称）子ども応援拠点施設」の整備に着手するなど、子どもを安心して生み育てられる環境づくりをより一層推進している。 また、子どもや若者が一人でも多く地元に着し、あるいは、ふるさとを一度離れたとしてもいずれは戻ってきていただくことが本市の大きな力となることから、こうふ開府500年を契機として育まれた「私の地域・歴史探訪」、「甲府ラーニング・スピーチ」といった地域を学ぶ取組や、住民の一体感を醸成する「甲府市の歌」の浸透、さらには遊亀公園附属動物園のリニューアルや、甲府城南側エリアなどの整備による新たな魅力の創出、そして、ここに残る思い出として刻まれる「小江戸甲府の夏祭り」をはじめとする四季折々のイベントを開催し、地元定着・回帰の源となる“ふるさと甲府を愛する心”の醸成にも力を注いでいる。 加えて、高校生や大学生に向けた、近隣12市町で構成する県央ネットやまなしの圏域内にある魅力ある企業を知る機会の創出や、約190社が出展した合同企業説明会の開催のほか、市内においては、若者の就職先として注目度の高いスタートアップ企業などの魅力のある企業の誘致にも取り組んでいる。 今後においても、こうした、これまでの考え方や取組を継承しつつ、リニア開業や環状道路の開通なども見据える中で、甲府駅前エリアとリニア駅前エリアの二拠点を核とし、「魅力」を更に磨き上げ、首都圏への近接性を活かしたまちづくりを推進するとともに、県央ネットやまなしの更なる連携により、各市町がもたらす効果を相互に享受することで、相乗効果を生み出しながら、甲府に関わる全ての人とともに、若者をはじめとする多くの方々に選ばれるまちを実現させてまいりたい。 ・自治会との協働による空き家対策について 基本目標の「安全・安心で快適な『まち』を創る」に関連し、池田地区には依然として多くの空き家があり、その利活用や老朽化した建物の安全確保は住民の快適な生活環境のために欠かせない。一方で、当自治会は自前の自治会館を運営しておらず、会議の会場確保に苦慮している。空き家を自治会活動の場、地
-----------	--

まちづくり部長	域コミュニティの拠点とすることができれば、空き家の有効活用と建物の環境保全が同時に行えるが、空き家対策事業として自治会と協働した取組が可能か、また市からどのような支援を受けられるか伺いたい。
	空き家は利活用可能な状態のうちに対応を図ることが重要である。市の支援として、売りたい方と買いたい方のマッチングを行う「空き家バンク制度」や、マッチング物件の改修費用を助成する「空き家バンク活用促進助成制度」のほか、まちづくりの観点から、空き家を地域の交流拠点として活用する場合に改修費用の一部を支援する「地域活性化施設整備費補助制度」も設けている。 また、自治会等の集会施設の新築・改築・取得に対する「地域集会施設建築費等補助制度」や、市の制度とは別に一般財団法人自治総合センターによる「コミュニティセンター助成事業」として、集会施設の建設等への助成もあり、これまでも効果的に活用されてきた。 空き家を地域の集会施設として整備するには、まず所有者の意向を確認した上で、活用手法やどの補助制度を利用するか検討する必要がある。様々なケースが想定されるため、まずはまちづくり部の空き家相談窓口や市民部協働推進課へご相談いただきたい。
質問	・高畑町昇仙峡線の池田工区1期の進捗状況と完了後の計画等について 令和4年度から事業化されている高畑町昇仙峡線（池田工区）の1期区間について、用地買収が終わっていないところがあるようだが、現在の進捗状況と今後の予定を伺いたい。また要望として、3期区間の前田橋周辺は現在普通車がすれ違うのがやっとで歩行者が通れない状況のため、早急な着手をお願いしたい。加えて、長松寺踏切も狭く、低学年の小学生が自転車で渡っており車から見ても危険なため、早期の計画立案をお願いしたい。1期工事完了後の見通しについて現状で公表できる計画があれば教えてほしい。
まちづくり部	本市では優先整備路線6路線7工区を位置付けたプログラム

長	を策定し、現在、高畑町昇仙峡線を含めた上位3路線を同時に事業化している。高畑町昇仙峡線は、JA山梨みらいセレモニーホール入口付近から国道52号との交差点までの約900mを整備する計画である。第1期整備として、現在池田小学校東入口から常照寺の先までの約480mの区間の用地買収を進めている。 第1期整備における令和7年度末時点の用地取得率は22.1%を見込んでおり、令和8年度には引き続き用地買収を進めるとともに道路工事にも一部着手する予定である。 第2期整備となるJA山梨みらいセレモニーホール入口付近から池田小学校東入口までの約160mの区間については、第1期整備の進捗状況を踏まえ、今後着手時期や整備内容をお伝えしていく。 池田工区より北側の前田橋や長松寺踏切方面の整備については、現行プログラムに位置付けた優先整備路線の完了見通しがついた段階で、交通環境の変化などを踏まえて検討してまいりたい。 工事の際には交通制限などご迷惑をおかけすることもあるが、今後も都市計画道路の事業進捗に鋭意努めていくので、引き続き、ご理解とご協力をお願いする。
質問	・都市の景観づくりと学校給食の減塩化について 住んでいて幸せだと思えるまちは景観がきれいである。京都の鴨川や哲学の道のように、歩くだけで素敵だと思える自然や川沿いの景観づくり（ランドスケープ）をしてほしい。 池田の公園の木が傷んでいたり、美術館近くの土手（桜並木）の雑草が茂っていたり、ツツジの木にツルが巻き付いていたりする。お金をかけず高齢者に安く事業としてお願いするなどして、綺麗な状態を保ってほしい。 また、山梨県は男性の食塩摂取量が全国1位、女性が5位と多い。個人の努力だけでなく行政の手段も重要なので、市長が音頭をとって学校給食の塩分を2gにするなど、小さい頃から薄味に慣れるような取組を進めてほしい。
まちづくり部長	武田神社周辺や甲府駅周辺、曽根丘陵周辺などを先導的な地区と捉え、高い建物の届出制度や、屋外広告物のルールを設け

総務部長	て景観づくりに取り組んでいる。雑草の管理についても計画的に河川沿いや道路沿い、街路樹の剪定を行っているが、目に付く場所があれば連絡いただければ対応する。 食塩摂取量が多いことは課題として認識しており、県が進める減塩プロジェクトに市も参画しているほか、市職員も減塩に取り組もうとしている。学校給食での対応については、教育委員会と課題等を共有しながら研究させていただきたい。
質問	・市政・総合計画を貫く「理念」について 総合計画が今後１０年間の指針であり子どもの未来に繋がることは理解できた。一方で、市長や幹部職員が変わっても市の方向性がギクシャクしないように、民間企業にある「企業理念」のような超長期の背骨となる「理念」が必要ではないか。Ｊリーグの百年構想や世界的企業の壮大な理念のように、行政にもそれを貫く理念があれば、基本計画や福祉計画などがそこへ向かって収斂されていくと思うがどうか。
企画部長	総合計画の１０年間については、時代や環境の変化に合わせて３年ごとに事業の見直しをかけながら目標に向かって進んでいる。 市の最も根幹となる理念としては、「甲府市自治基本条例」や、５つの項目からなる「甲府市市民憲章」がある。これらを大元として、その時代時代に合わせた総合計画を策定し、市政を進めている。
意見	自治基本条例や市民憲章があるなら、一般市民には馴染みがないため、様々な機会に示していく必要があると感じた。
樋口市長 (まとめ)	皆様からの若者定住、空き家対策、高畑町昇仙峡線の工事など、大変貴重なご質問とご要望をしっかりと受け止めさせていただく。 空き家の問題や景観の維持については、地域の実情も踏まえながら皆様と知恵を絞って対応していく。池田地区の素晴らしい桜並木なども計画的に管理し、美術館周辺の景観維持にも努める。学校給食の減塩についても、子どもの頃からの取組が重

	要なので、教育委員会と調査してできるところから進めたい。 価値観が多様化する中でも、甲府に関わる全ての人が幸せを実感し、希望ある未来を創り続けるために第七次総合計画を策定した。総合計画の下にある様々な個別計画についても、機会あるごとに分かりやすく皆様にお示ししていきたい。 本日いただいたご意見は、市役所内でしっかりと検討を深めていく。
地区からの挨拶要旨	
池田地区自治会連合会会長	樋口市長からの具体的で分かりやすいご説明により、参加した皆様も十分に理解できたと考えている。また、池田地区からの質問に対しても誠意をもってご回答いただいたことに厚く感謝申し上げます。 少子高齢化問題、リニア中央新幹線に向けた課題、そして池田地区における池田通りの拡幅、空き家対策、環境問題など、多くの課題が山積している。 これからも行政と地域が一体となって、より住みやすく安全で安心して暮らせるまち甲府を創っていきたいので、引き続きご指導をよろしくお願いする。 樋口市長をはじめ市の関係各位に御礼申し上げるとともに、今後とも官民一体となったまちづくりを行っていききたい。